

# 淡路夢舞台からはじまる 新しい価値創造

AWAJI FUTURE STAGE

HYOGO Prefecture × Partnership Project

淡路夢舞台 創造的再生の基本方針 [概要版]

# 淡路夢舞台に込めた想い。 その価値を、兵庫県とともに次の世代へ。

「21世紀はもはや、放っておけば自然が環境を整えてくれる時代ではなく、一人ひとりが強い意志をもって、積極的に自然に働きかけながら、環境と共生していかなければならない時代」

安藤忠雄氏は、淡路夢舞台を検討する際にこのように語っています。

2000年の節目の年、

「国際園芸・造園博覧会 ジャパンフローラ 2000 (淡路花博) の開幕に合わせて、私たち兵庫県は、「失われた自然の再生」と「人と自然との共生」を理念に掲げ、多彩な交流の舞台として淡路夢舞台を誕生させました。

そして今。時代の変化の中でその価値を未来へつなぐには、守るだけでなく新しい視点と創造的な実践が必要です。

そこで私たちは、民間の発想力、創意工夫、運営ノウハウを取り込み、

“ともに、淡路夢舞台を再生させる”という大きな決断をしました。

これは単なる施設運営の見直しではなく、

淡路島の未来、そして地域の誇りを次世代へつなぐための

官民共創の新しいステージへの挑戦です。

## 再生の背景

時代の潮流が、淡路夢舞台の理念と重なり合う。



### 観光価値は「量」から「質」へ

観光目的が「消費」から「共感」へ。  
旅行者は“そこでしか得られない体験”を求める  
体験価値志向へとシフト。



### ウェルネス・ツーリズムへの注目

人がよりよく生きることをめざす『ウェルビーイング』  
への関心の高まり。それによるウェルネス・ツーリ  
ズムの需要が高まっている。

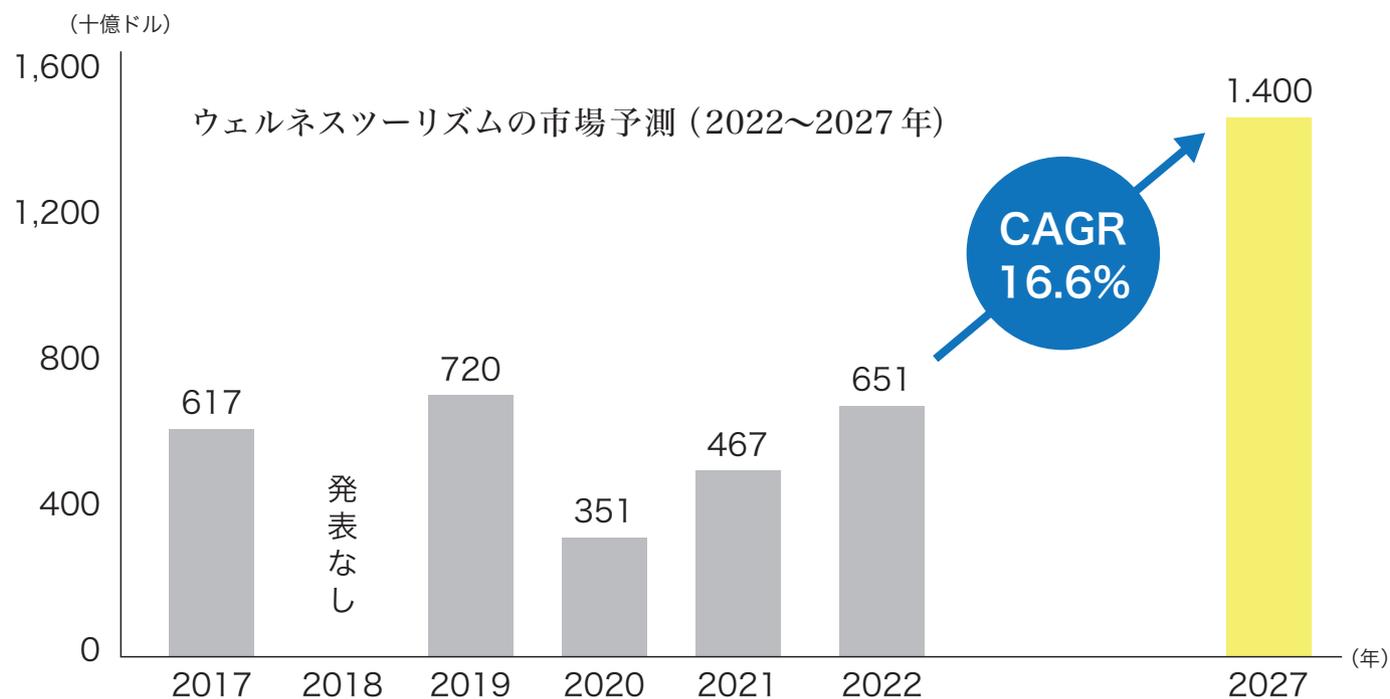


### SDGs のその先へ Planetary Health

世界の価値観は、持続可能な開発目標 (SDGs) を  
基盤としつつ、地球環境と人の健康を一体で捉える  
「Planetary Health (プラネタリーヘルス)」へ。

## 再生の背景

# 世界が求めるウェルネスツーリズム



ウェルネスツーリズム市場はパンデミックを経て再拡大。  
健康・ストレス軽減への需要増で、2027年まで年平均17%の成長見込み。

2022年の市場規模\*は650.7十億ドル、27年の市場規模は1,399.6十億ドルと推計。

集計対象：健康の維持・増進を目的とする旅行の支出合計：ウェルネスを主動機とする一次／ウェルネスを主動機としない二次（国内／海外旅行問わない）

※ Global Wellness Institute “Global Wellness Tourism Economy Monitor 2023” を基に作成

## 再生の背景

大阪湾ベイエリアは、国際交流の新たなフェーズへ。



### 大阪・関西万博 (2025)

「いのち輝く未来社会のデザイン」の理念を継承。ウェルビーイングや多様性、共生社会などの価値観が広がる。



### 神戸空港国際化 (2025～)

国際チャーター便、そして2030年頃の国際定期便就航によるアクセス強化。



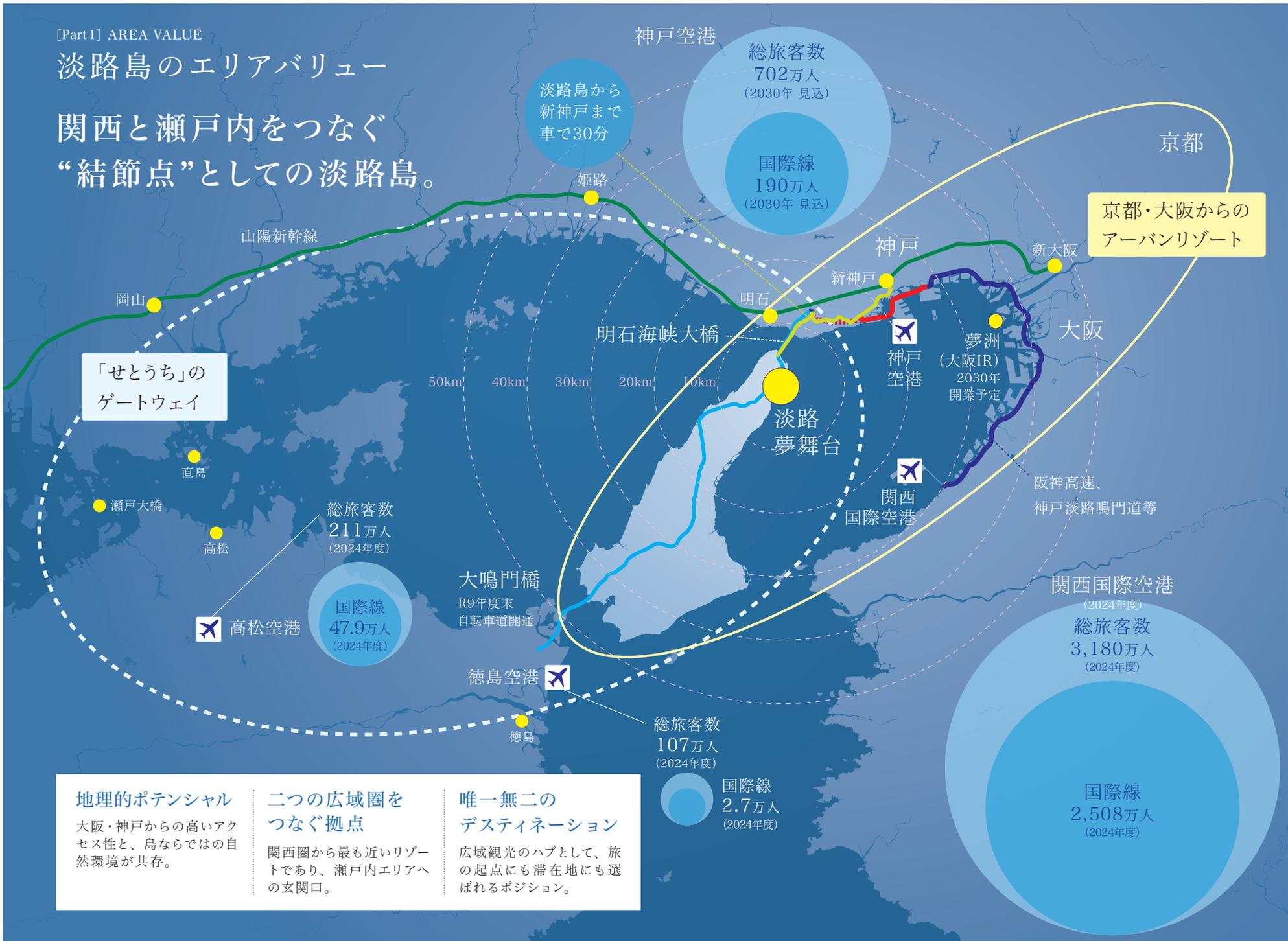
### 大阪 IR 開業 (2030予定)

世界水準の統合型リゾートが創出する新たなインバウンド需要。富裕層・長期滞在客の呼び込み。

これらの画期的なイベントが相乗し、淡路島を含む大阪湾ベイエリアは大きな転換点を迎えています。観光・ビジネスの交流が一層活性化し、民間投資も広がる再構築フェーズに移行しつつあります。

# 淡路島のエリアバリュー

## 関西と瀬戸内をつなぐ “結節点”としての淡路島。



### 地理的ポテンシャル

大阪・神戸からの高いアクセス性と、島ならではの自然環境が共存。

### 二つの広域圏をつなぐ拠点

関西圏から最も近いリゾートであり、瀬戸内エリアへの玄関口。

### 唯一無二の デスティネーション

広域観光のハブとして、旅の起点にも滞在地にも選ばれるポジション。

## 淡路島のエリアバリュー

“日本の、はじまりの地”が生み出す、  
高付加価値の滞在体験。



### 歴史・文化資産

- ・日本文化の“源流”
- ・国生み神話、御食国（みけつくに）の食文化、祭礼、伝統産業



### 環境持続性

- ・循環する島
- ・「あわじ環境未来島構想」のもと、エネルギー自給率100%超、食料自給率100%超



### 体験価値・コンテンツ

- ・自然が舞台装置となる“高付加価値の滞在体験”
- ・ウェルネス、ローカルガストロノミー、アート&クラフト、プライベート性の高い宿泊体験。
- ・「ひょうごフィールドパビリオン」の展開



### 建築が生む地域価値

- ・現代建築とアートの舞台
- ・安藤忠雄氏、丹下健三氏、坂茂氏らの建築群による「建築の聖地」としてのブランド価値
- ・瀬戸内国際芸術祭などとの連携ポテンシャル



# 創造的再生

未来に向けた新たな物語を生み出す“官民共創プロジェクト”

[再生の3つのコンセプト]

## つなぐ・つどう・つくる

「創造的再生(リジェネラティブ)」とは、「持続可能性(サステイナブル)」をさらに前に進める言葉。「現状維持のための改善」ではなく、「課題を根本的に見直し、従来のスキームにとらわれずより良い形を生み出し、将来へとつなぐ」ことを意味する。

淡路夢舞台の再生は、過去と未来、人と自然、地域と社会を「つなぐ」ことから始まります。人が集い(「つどう」)、新たな価値を「つくる」。その連鎖のなかで、この場所は再び生命力を帯びた「共創の舞台」へと進化していきます。



## 淡路夢舞台の未来ビジョン

### 「つなぐ」過去と未来、人と自然、世界と地域が繋がる舞台



#### 過去と未来をつなぐ

淡路島に息づく歴史や伝統文化を再解釈し、未来へ受け渡す。阪神・淡路大震災からの復興の記憶を学びとして次世代へ継承する。



#### 人と自然をつなぐ

光や風、海や森の気配を感じることで、一人ひとりが“ほんとうの自分”に再び出会う。心身の再生体験を生み出す。



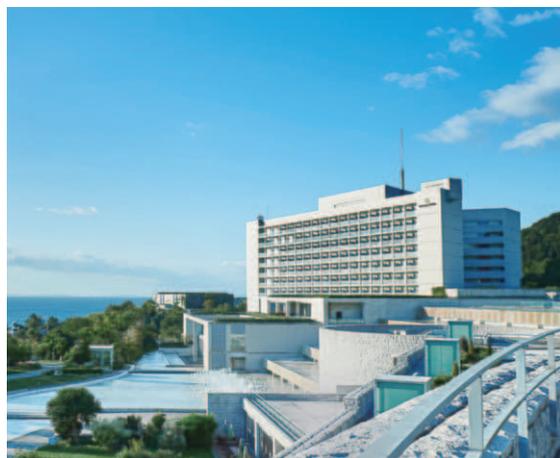
#### 世界と地域をつなぐ

関西・瀬戸内と世界を結ぶクロスポイントとして、国内外の交流を生み出すゲートウェイとなる。

## 淡路夢舞台の未来ビジョン

「つどう」→「つくる」

出会いが創造の力を生み、未来への実践がここから始まる。



### つどう

淡路夢舞台が宿す「人と自然との共生」や「創造的復興」の物語が、本物の体験価値を求める人々を惹き付ける。ここで出会う多様な人々の対話が、新しい文化や産業、アイデアを生む力となる。



### つくる

人と自然、世界と地域が響き合いながら、持続可能な未来とともに“つくり出す舞台”へ。

SDGs のその先を見据え、“人と自然の新たな調和を体現する地域モデル”を世界に発信する拠点として、新たな一步を踏み出す。

## 共創の枠組み

再生の起点となる、淡路夢舞台が持つ6つの強み。



### 1 特別なロケーション

関西圏から1時間県内の利便性と、海と緑に抱かれた非日常的な環境による深い没入感が共存。

### 2 ブランドカと国際的認知

20年以上積み重ねた実績。「自然との共生」「震災からの創造的復興」という社会的メッセージの内包と安藤忠雄建築の文化的・芸術的価値。

### 3 広域連携のハブ

陸・海・空が交差する、ベイエリア広域観光のクロス・ポイント。

### 4 ウェルビーイング×体験市場への順応性

自然、文化、食、アートが有機的に結びつく環境。国際的なウェルネスエリアとして成長。

### 5 複合運営という強み

多機能エリアを一体で運営してきた実績とノウハウ。宿泊・MICE・ウェルネス・アート・教育など領域横断の事業を展開できる柔軟性。

### 6 新しい価値創造の余地

既存資産を“読み替える”ことで、会議場→創造的オフィスなど、用途転換に対応可能な構造的ポテンシャル。

## 共創の枠組み

### 官民連携による、持続可能な運営へ。

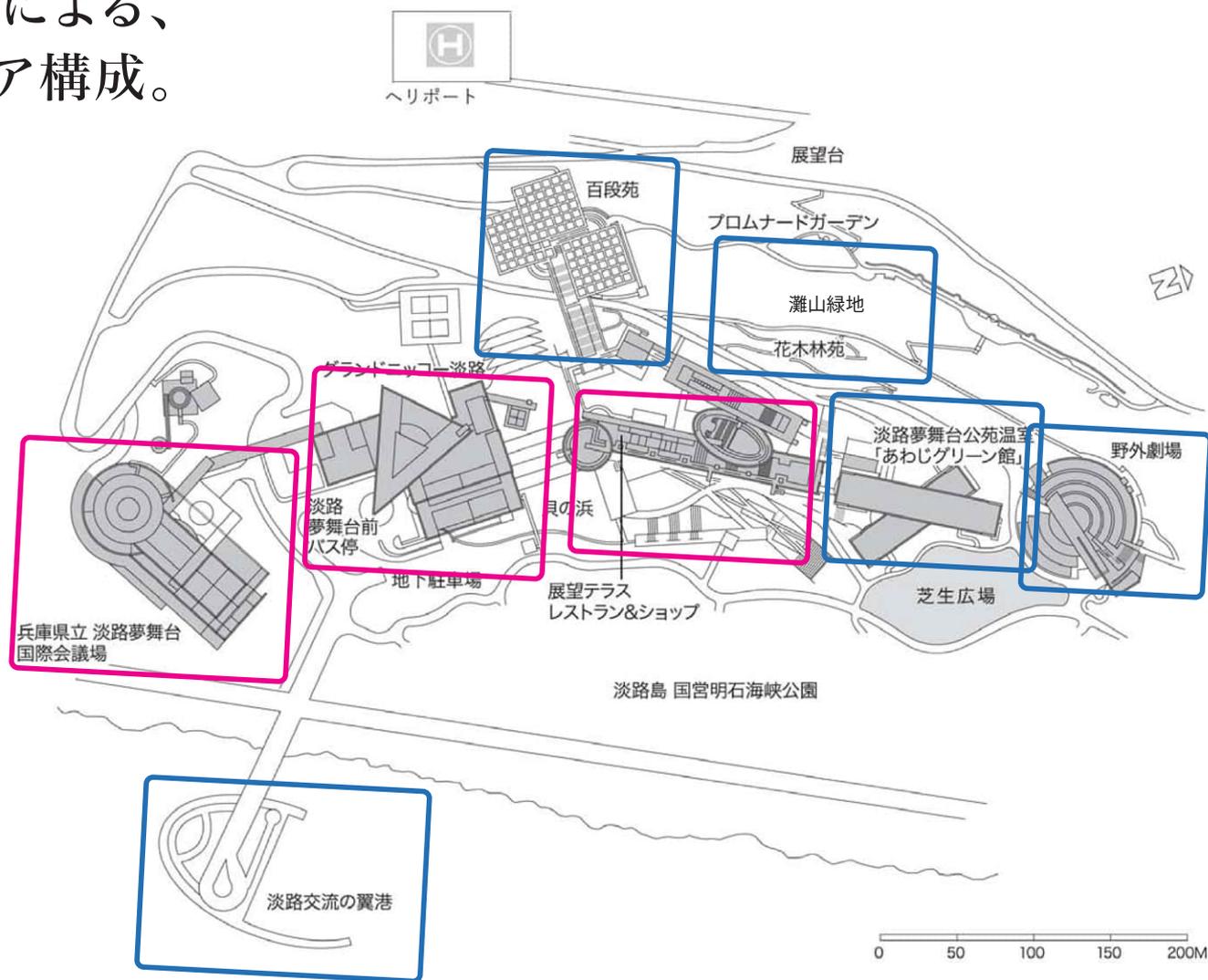
周辺環境の変化や施設の市場性、公共性を踏まえ、新たな運営方針を導入します。

施設名	今後の運営方針
ホテル・展望テラス	土地と建物を一体で民間に譲渡する
国際会議場	「公の施設」としての位置づけに区切りをつけ、土地と建物を一体で民間に譲渡する
百段苑・温室・野外劇場 灘山緑地 淡路交流の翼港	県保有の「公の施設」としての位置づけを維持し、管理運営を民間事業者へ委託（指定管理）する 民間事業者の創意工夫が発揮できるような公募とする

- ・官民が参画する運営協議会などにより、淡路夢舞台全体の一体性や公共性の維持・確保に努めます。
- ・いずれの施設においても、「従業員の雇用の確保を基本」に取り組を進めます。

## 共創の枠組み

譲渡と委託による、  
新たなエリア構成。



譲渡対象エリア  
委託対象エリア

## 共創の枠組み

[譲渡対象] 民間の投資と創造力で、価値を最大化する。



### ホテル・展望テラス

淡路夢舞台の中心的宿泊施設。展望テラスの活用や、地域食材・歴史・文化体験などとの連携強化によって、“淡路らしさ”をより体感できるプレミアムホテルへの進化を期待。「淡路夢舞台全体のゲートウェイ」としての再ブランディングが求められる。



### 国際会議場

ホテルと直結。周辺に大規模施設が開設され、公の施設としての役割に区切りをつける。民間の柔軟な発想で、MICE + ウェルビーイング + アートが融合する次世代型活用への転換が鍵。夢舞台全体の「知の発信・交流拠点」としての再稼働を期待。

## 共創の枠組み

[委託対象] 公共性を維持し、官民共創で理念を継承する。



### 百段苑・温室・野外劇場・灘山緑地

「人と自然の共生」「環境再生」という淡路夢舞台の理念を象徴する中核的施設群。公共性を維持しつつ、民間の創意工夫を発揮できる公募を実施。「植物×アート」「自然×ウェルネス」など体験価値の創出を期待。

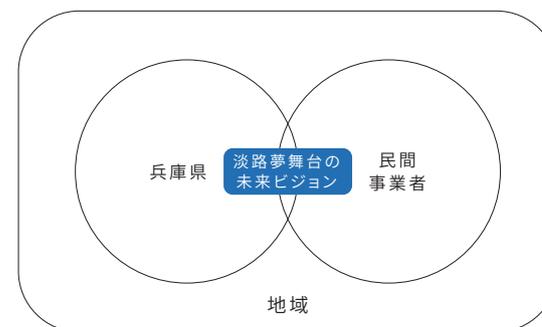


### 淡路交流の翼港

淡路夢舞台の北東部に位置する海上交通拠点。地方港湾としての公共機能を担保。マリレジャーやクルーズ需要の高まりを踏まえ、「空・海・陸」を統合する「淡路島の海の玄関口」としての機能再構築を期待。

## 共創の枠組み

共に走り、共に育てる。  
官民の役割分担と連携で進める  
新たな共創プロジェクト。



項目	兵庫県の役割	民間事業者の役割
理念・公共性・一体性の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>○淡路夢舞台再生の基本方針策定・公表・周知</li> <li>○淡路夢舞台の一体運営に向けた運営協議会（仮称）への参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○淡路夢舞台の理念、県の提示する「再生方針」を踏まえた事業計画・投資計画等の作成、事業の持続的展開</li> <li>○運営協議会（仮称）への参画</li> </ul>
制度設計・手続き	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資産譲渡・委託（指定管理）スキームの整理と実施方針の公表</li> <li>○公募・審査・契約手続きの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○法令・契約条件に基づく運営・維持管理</li> <li>○民間の創意による空間再生</li> </ul>
地域との連携・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域活性化・観光振興等の方針作成、施策展開</li> <li>○多様なステークホルダーの連携支援</li> <li>○エリアプロモーションの展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エリア戦略を踏まえたブランド開発</li> <li>○体験型コンテンツ等、地域資源との連携</li> <li>○公的施策、プロモーション等との連携</li> </ul>
環境保全・リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境保持及危機管理対応等に関する法令・ガイドライン等の提示及び関連施策の実施</li> <li>○緑地・港湾等の公共エリアでの行政的監督</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○法令・ガイドライン等の遵守</li> <li>○環境負荷低減・安全運営への自主的取組</li> </ul>

## 共創の枠組み

### 今後のスケジュール

令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）～
<b>公募</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・事業スキームの決定</li><li>・民間事業者の公募開始</li></ul>	<b>契約・譲渡</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・企画提案審査・選定</li><li>・譲渡契約締結</li><li>・引継ぎ・改修計画の調整</li></ul>	<b>再生フェーズ開始</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・新運営体制による再生事業スタート</li></ul>

※上記スケジュールは現時点の想定であり、調整の可能性があります。

IDEAL STATE

## 私たちが求めるのは、“共創のパートナー”

私たちが新たな運営者に期待するのは、淡路夢舞台の理念と、県が掲げる未来ビジョンに深く共感し、この地の潜在力をともに引き出していただける**共創のパートナー**となることです。

淡路島が持つ比類なき自然・歴史・文化を持続可能な価値として磨き上げ、**地域社会とともに発展させていく**こと。

淡路夢舞台を、**世代を超えて誇れる場として育てていく**こと。こうした取組に、確かな理念と長期的な視点をもって参画し、民間ならではの創造力を発揮いただけることを強く期待しています。

CONTACT

## 相談・問合せ窓口

〒650-8567

兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1

兵庫県企業庁総務課

Tel: 078-362-4327

E-mail: kigyosoumu@pref.hyogo.lg.jp

兵庫県産業労働部国際局国際課

Tel: 078-362-3025

E-mail: kokusaika@pref.hyogo.lg.jp

兵庫県まちづくり部公園緑地課

Tel: 078-362-9308

E-mail: kouenryokuchika@pref.hyogo.lg.jp

兵庫県土木部港湾課

Tel: 078-362-9274

E-mail: kouwanka@pref.hyogo.lg.jp

